

# 芸術科（音楽Ⅰ）学習指導案

平成 29 年 12 月 12 日（火）3 限目  
鹿児島県立古仁屋高等学校 普通科  
第 1 学年 1 組 選択者：1 2 名  
指導者 鳩野 由佳

1 題材 「音楽の要素とイメージをつなげよう」（鑑賞）

2 教材 組曲《動物の謝肉祭》 カミーユ・サン＝サーンス 作曲

3 題材の目標

- (1) 組曲の仕組みや楽器の音色，作曲された歴史などに関心を持ち，学習に意欲的に取り組む。
- (2) 各楽曲のリズム，音色，旋律などを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，各楽曲について思いや意図をもち，言葉にして表現する。
- (3) 各楽曲のリズム，音色，旋律などを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ，よさや美しさを創造的に味わって鑑賞する。

4 題材における学習指導要領の指導内容

- B 鑑賞
- ア 声や楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわりを感じ取って鑑賞すること。
  - イ 音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きを感じて鑑賞すること。
  - ウ 楽曲の文化的・歴史的背景や，作曲者及び演奏者による表現の特徴を理解して鑑賞すること。

5 題材の評価規準

観点 1 音楽への関心・意欲・態度	観点 2 音楽表現の創意工夫	観点 3 鑑賞の能力
組曲の仕組みや楽器の音色，作曲された背景や意図などに関心を持ち，学習に意欲的に取り組む。	各楽曲のリズム，音色，旋律などを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，各楽曲について思いや意図をもち，言葉にして表現する。	各楽曲のリズム，音色，旋律などを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ，よさや美しさを創造的に味わって鑑賞する。

## 6 題材について

### (1) 題材設定の理由

今回は生徒が特に苦手意識を持つ鑑賞の授業である。どのように興味を持って鑑賞すれば良いのかわからないという声や、曲に興味湧かず眠たくなるという声がよく聞かれる。生徒はこれまで、お互いの演奏を聴き合ったり、ミュージカル映画を見たりする鑑賞の授業を行ってきた。今回初めてじっくりと音楽を聴く機会を持ち、音色の美しさや音楽の表現方法の特徴を実感し、興味・関心を高め視野を広げさせたいと考えこの題材を設定した。

今回使用する教材は耳にしたことが多いであろう曲が含まれており、動物をモチーフにしているため親しみを持つことができ、比較的鑑賞しやすいと考え選んだ。

### (2) 生徒の実態

1年1組は授業に積極的な生徒が多いクラスである。男女ともに大きな声で歌ったり休み時間も楽器の演奏をしたりと音楽に親しみを持つ生徒が多く、音楽活動に積極的に取り組む態度が見られる。また、楽譜を正確に読み取ることができる生徒も多い。しかし男女ともに、落ち着いて曲を聴くことやじっくりと考えること、さらに自分の感じた思いを言葉にして表現する力は今一步である。

### (3) 指導上の留意点

ア 興味・関心を持って意欲的に取り組ませ、鑑賞の楽しさを実感させる。

イ 各楽曲のリズム、音色、旋律などを知覚・感受し、思いや意図をもって言葉で表現する工夫をさせる。

ウ 鑑賞を通して、音楽的要素への理解を深め、よさや美しさを創造的に味わわせる。

## 7 指導と評価の計画（全2時間）

時	学習内容	題材の評価規準	評価方法
第1時	○ 楽曲の全体について学ぶ。 ・ 楽器の特徴を考える。 ・ 作曲者と楽曲の背景を知り、イメージを膨らませる。 ・ 楽曲を鑑賞し、イメージを膨らませる。	観点1 観点3	観察 ワークシート
第2時	○ 楽曲の内容を学ぶ。 ・ 各自のイメージをグループで表現する。 ・ 表現方法により聴き取り方が違うことを実感させる。 ・ 作曲者のイメージを感じ取り、改めて鑑賞する。	観点1 観点2 観点3	観察 ワークシート

## 8 本時（2/2）

### (1) 目標

ア 感じ取ったイメージを言葉で表現する。

イ 各楽曲の音楽的要素の違いや作曲者の意図を感じ取り、楽しんで鑑賞する。

ウ 音楽のさまざまな表現方法に気づく。

(2) 展開

過程	時間	主な学習活動	指導上の留意点	評価の 規準	評価 方法
導 入	5	1 本時の目標の確認 「音楽の要素とイメージをつなげて鑑賞しよう」  ・ 音楽の要素にはどのようなものがあるのかを再確認する。	・ 本時の学習の目標と授業の流れを把握させる。  ・ 速度、強弱、リズム、音色、旋律、構成など	観点1	
展 開	40	2 感じ取ったイメージをグループで発表する。 ・ 曲を鑑賞しながら、気付いた音楽の要素や感じ取ったイメージをグループで発表し、共有する。  3 作曲者の表現方法を理解しながら鑑賞する。 ・ 表現方法により曲の聞こえ方が違ってくことを感じる。 ・ 様々な曲のパロディが取り入れられていることを知る。 ・ 作曲された背景を知る。	・ 音楽の要素を踏まえた表現を促すように促す。 ・ お互いの意見を否定しないよう注意する。  ・ リズム・音色・旋律などの違いで与える印象が変わることに気付かせる。 ・ 使用楽器の特徴もつかむ。 ・ 作曲者がどのような思いでこの曲を作ったかを理解させ、曲にはそれぞれ作曲者の思いがあることに気付かせる。	観点1 観点2 観点3	観察 ワーク シート
終 末	5	4 本時のまとめ	・ 本時の感想を記入させる。	観点1 観点3	ワーク シート

9 評価

ア 感じ取ったイメージを言葉で表現する。

イ 各楽曲の音楽的要素の違いや作曲者の意図を感じ取り、楽しんで鑑賞する。

ウ 音楽のさまざまな表現方法に気づく。